

松っ子だより

平成27年12月22日(火)

松沢小学校だより No.10

文責：校長 星 俊 夫

☆2学期をふいかえって



2学期も無事終わることができるという安堵感と、これからも気を緩めるわけにはいかないという緊張感が入り交じる時期になりました。そのような中で、48名の子どもたちが大きな事故等もなく無事過ごせたことが何よりもうれしいことです。

この2学期の行事をふり返れば、1年生は初めてでしたが、元気いっぱいの姿を見せてくれた校内水泳記録会、郡合奏祭、町小体連陸上競技大会、松っ子発表会、歯をくいしばってゴール目指してがんばった校内マラソン記録会など、子どもたちにとっても思い出深い活動や行事が色々ありました。PTAの皆様、地域の方々には、行事や活動に対して準備や運営などで多大なご協力を頂き、誠にありがとうございました。おかげさまで、充実した教育活動ができましたこと、心より感謝申し上げます。

しかし、社会全体に目を向ければ、大変残念なことですが、自殺やいじめ等、学校や子どもたちに関する暗いニュースが目立った2学期でもありました。

いじめや不登校問題では、国の緊急調査が実施されるなど、問題の早期解決に向けた全国的な取組が今も進行中です。幸い本校では今のところ、いじめや不登校に関して緊急を要する問題は発生していませんが、小さなトラブルやいじめへの発展が心配される不安な面は皆無ではありません。したがって本校教職員は、日頃より常に子ども一人一人に寄り添い注意深く見守り、問題の早期発見に心がけ緊張感を持った対応をしていくよう努めております。また、人権尊重や道徳、各教科・学校生活等の指導を通して、思いやりの心や態度の育成をさらに図っていくことが重要であると考えています。

ご家庭におかれましても、今後とも、これらの問題の未然防止や早期発見のため、日頃から子どもたちの様子に十分注意をしていただくと共に、学校との連絡・連携をより密接にさせていただきますようお願いいたします。

★2016年、心豊かな環境をめざして！

全国の小学校で2013年度に起きた児童の暴力行為が、1997年度の調査以来初めて1万件を超える1万896件となったことが、文部科学省の「問題行動調査」で分かりました。小学校では、いじめの認知件数も過去最多を更新。問題行動の低年齢化が浮き彫りになりました。

小学校の暴力行為は2005年度までは、年間2000件でしたが、06年度以降増加傾向が続き、13年度は前年度より2600件増えました。児童間6849件（児童対児童の暴力）、教師に対する暴力1964件、器物破損1907件などです。

加害児童は、1万356人で、学年が上がるほど多くなり、6年生が3430人と最多になっています。

また、全国の小中高校などで把握された、いじめは18万5860件で、このうち小学校は過去最高の11万8805件（前年度比1421件増）に達していたことも判明しました。問題行動の低年齢化が進んでいることについて、文科省は「感情をうまくコントロールできず、人間関係を構築できない児童が増えている」と説明しています。

これは、子どもだけの問題ではありません。むしろ人間関係が希薄になった社会全体の中に問題が含まれているのではないかと思います。

危険ドラッグ、なりすまし詐欺、IT犯罪、無差別な傷害事件等が毎日のように報道されてい



ます。

特別なことをするのではなく、「素直な心」で「他とのかかわり」をよく考え、「温かな心」で生活しているならば、何気ない言動にも、自尊心が芽生え、周りも一緒になって「伸びていく」ということを感じます。

子ども達一人一人の輝く未来を願う時、人間とは「支え合い、高め合う」ものであるという不易の理念を、学校・家庭・地域において、教育活動はもちろんのこと、日常生活体験や遊びの中から自然に学びとることができるような「心豊かな環境」をつくらなければならないと改めて思いました。



☆ 各種コンクール・大会等の入賞者 おめでとうございます！

<南会津地区の各種コンクール>

- 平成27年度 南会津郡小中学校音楽祭
[創作(作曲)の部]
準特選 6年 佐藤 楽人 6年 星 伶奈
- 平成27年度 南会津郡児童造形作品審査会
優良賞 5年 齋藤 凜華
- 平成27年度 JA共済福島県書道コンクール
奨励賞 4年 有賀 麻衣
- 平成27年度 小学生の税に関する習字展
優秀賞 5年 齋藤 凜華
金賞 5年 大桃 夏鈴
6年 星 伶奈 6年 星 遼河
- 平成27年度
小学生の税に関する絵はがきコンクール
佳作 6年 星 伶奈

<福島県全体の各種コンクール>

- 平成27年度 福島県小学校理科作品展
準特選 6年 白井 奈波
- 平成27年度 福島県読書感想文コンクール
準特選 5年 細井 旺雅
- 平成27年度 福島県児童作文コンクール
佳作 5年 大桃 夏鈴

※上記以外の大会、

コンクールについては、次号で掲載します。

1月8日(金)3学期の始業式には、全員元気に登校してくれることを願っています。保護者の皆様・地域の皆様、2016年もご支援・ご協力をお願いいたします。よいお年をお迎えください。

どんな人にも、得意、不得意があると思いますが、挑戦してみなければ分かりません。やってみて初めてその価値に気がつくことがたくさんあるのではないかと思います。子どもたちが将来自分の可能性を伸ばすためには、まずいろいろなことに興味を持って、体験をすることが大切だと思います。

うまくいかないできないことに気づくことが始まりであり、どうすればいいか自分で考え始め、行動を起こすようになります。そしてこつこつ取り組むことが大事だと体感し目標をもってがんばるよれる人でも、最初は誰でも素人です。

「2学期のみなさんの頑張る姿を見ていると、将来、検沢小の子どもたちから、オリンピック選手や、ノベル賞を受賞する人が出るかもしれないね。」と、校内の賞状伝達の時に子どもたちに話しました。失敗にくじけず、苦しいことに逃げないで、運動でも、文芸でも、関心と意欲を持ってひたすら努力してきたことが、よい結果となってあらわれたと思います。私たちも、夢と熱意を持って一人一人の可能性を伸ばせるよう今後も努めていきたいと思っています。

